

FULL HEIGHT DOOR®

STEALTH MODE ステルス枠

フルハイトドア

施工手順書

片引き戸 【上吊タイプ】

片引き戸
上吊タイプ



施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



注意

● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けした場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので、扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

□片引き戸(上吊)

forステルス枠

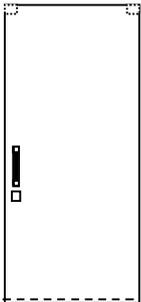
施工手順書2013/6更新

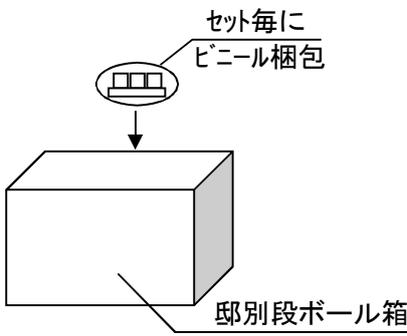
改訂2017/1

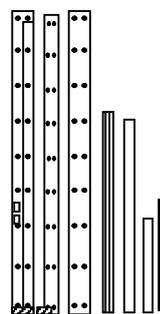
■ 製品及び同梱内容の確認

● 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

※はフルハイトカロ引戸の場合のみになります。

建具			同	梱	品
部材	数量	備考			
引き戸	1枚	引手取付済み(ウェルチカはなし) 固定カップ取付済み 鎌錠の場合は カセットのみ取付済			
					

※建具金物箱			※下ローラー	※打込みスペーサー	鎌錠	同	梱	品
部材	数量	備考						
金物箱	10セットに付1箱		 1ヶ	 1ヶ	 ※鎌錠付の場合のみ1セット			
								

下地枠			施工手順書			同	梱	品
部材	数量	備考						
縦枠下地	1本							
中方立下地	1本							
片方立下地	1本							
上枠下地	1本							
開口定規	1本	下地枠内(狭)寸法用						
	1本	下地枠内(広)寸法用						
見切縁	1本	ラフカット						
								

□片引き戸(上吊)

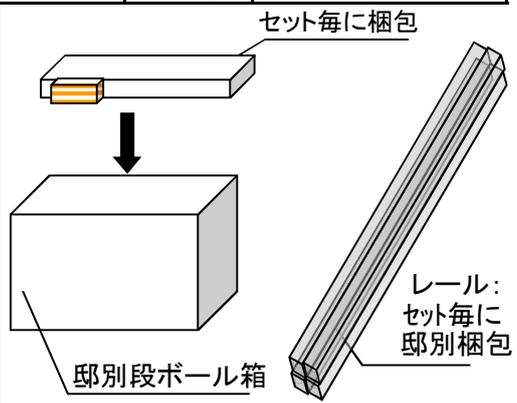
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

■ 製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

下地金物箱			引戸レール	上部吊車	上部吊車(両側スライダー付)						
部材	数量	備考	同	1本(付属ビス含む)	1ヶ	1ヶ					
金物箱	1式			トリガー・取付治具	調整ビス		鎌錠受け				
レール	1式		梱	2ヶ	1セット	1ヶ					
				<table border="1"> <tr> <td>H21</td> <td>12本</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>14本</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>14本</td> </tr> </table>			H21	12本	H24	14本	H26
H21	12本										
H24	14本										
H26	14本										
			※下部部品はタイプにより異なります				※鎌錠付の場合				
			品	上吊	カロの場合	壁付ガイドの場合					
				床付ガイド	下レール	壁付ガイド					
				1ヶ(ビス3本付)	1本(付属ビス含む)	1ヶ(ビス4本付)					

□片引き戸(上吊)

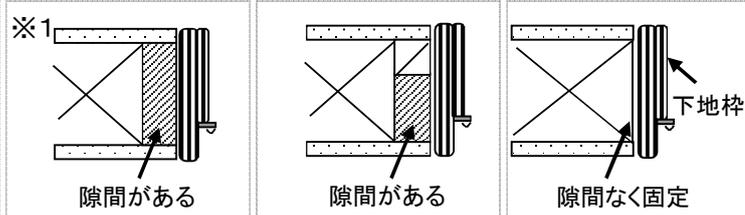
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

1 施工前の確認事項

- ① 下地枠を取り付ける前に、開口部の中(図面: ROW寸法)と高さ(図面: 床仕上~開口高さ)の確認をしてください。
(縦枠下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください)

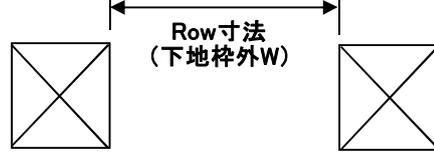


×

×

○

※2



図面上のRow寸法(下地枠外W)の確認

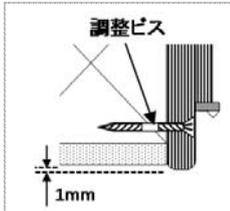
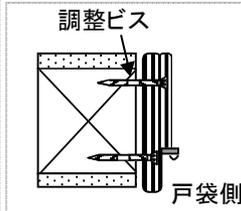


注意

- ※1: 下地枠は躯体(構造材)に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。
 ※2: 施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法(下地枠外W)を確認してください。
 ※開口部(柱・まぐさ等)の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認してください。

2 縦枠下地の取り付け

- ① 縦枠下地を柱に固定します。
(下地断面の厚みが薄い方が戸袋側)
枠の位置は壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。(縦枠下地は壁厚より1mmずつチリが出ます)

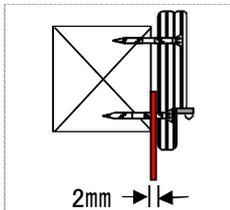
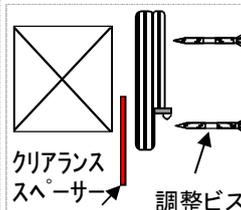


調整ビスにより枠を固定

壁厚より1mmずつチリが出る

ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。

- ② 取り付けの際に調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー(2mm)を躯体と枠の間に入れ、クリアランスを保ち、ビス固定を行ってください。(図面寸法: 躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm)
また、縦枠下地の裏側下部にあらかじめ2mmのパッキン材がついています。



クリアランススペーサーを挟む

2mmのクリアランスを保ち調整ビスにより枠固定

あらかじめ縦枠下地の裏側下部に2mmのパッキン材がついている

注意

- ※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材が取り付けられていますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。
 ※クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
 ※躯体がスタッドの場合は石膏ボードに直接、縦枠下地を取り付けると調整ビスが利かないので、必ず間に木材(15mm以上)を入れてください。
 ※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度、取り付けを行ってください。

□片引き戸(上吊)

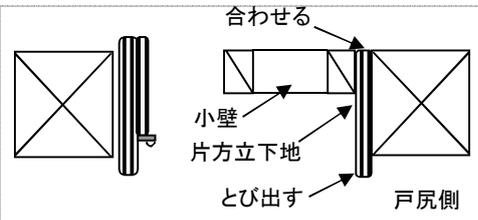
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

3 片方立下地の取り付け

- ① 片方立下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にて躯体に固定します。(小壁側の壁面と下地材を合せます)



下地裏面に接着剤全面塗布

下地表よりビス固定

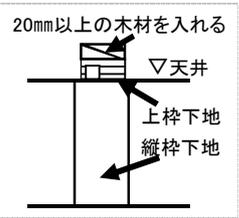
片方立下地の取り付け位置

注意

- ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)
- ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
- ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。

4 上枠下地の取り付け

- ① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。上枠下地の取り付け位置は壁厚の真ん中となります。(縦勝ちに納まります) その際、上枠下地の裏側には20mm以上の木材を入れてください。



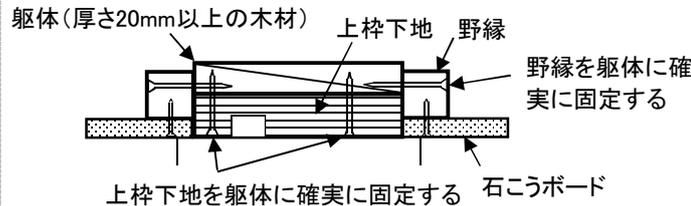
下地裏面に接着剤全面塗布

縦枠勝ちに納める

下地表よりビス固定

上枠下地の裏には20mm以上の木材を入れる

- ② 上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。



石膏ボードの厚さ分を確保して、野縁を躯体に固定
その後、野縁に石膏ボードを取付ける

注意

- ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)
- ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
- ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置でビス止めを行ってください。
- ※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。
- ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁割れの原因となります。
- ※縦枠下地、及び片方立下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。

□片引き戸(上吊)

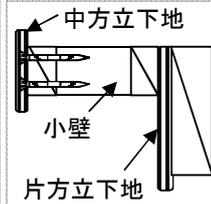
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

5 中方立下地の取り付け方

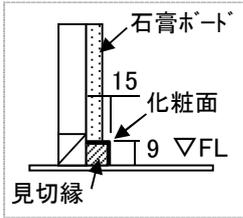
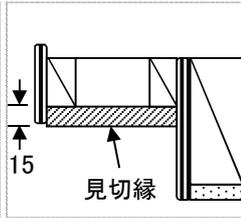
① 戸袋部分に小壁を立て、中方立下地を小壁に接着剤・取り付けビス(現場手配)併用にて固定します。(中方立下地は床仕上げ面から上枠下地の下端までの長さです)



下地裏面に接着剤全面塗布

小壁を立てて
中方立下地の取り付け

② 戸袋側の小壁に沿わせて見切縁を接着剤・タッカー(現場手配)併用にて取り付けます。見切縁の15mmの面に石膏ボードを載せてください。(石膏ボードは、12.5mmの設定なので2.5mmのチリが出ます)



見切縁の取り付け

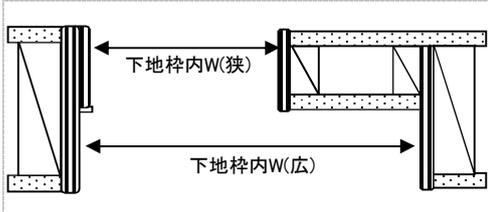
見切縁の位置

注意

※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビ系をお奨めします)
 ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
 ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。

6 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

① 下地枠の取り付けが終わったら同梱品の開口定規(2種類)にて、下地枠内W寸法の確認をしてください。(狭)・(広)調整が必要な時は手動ドライバーにて縦枠下地の出し入れを行ってください。

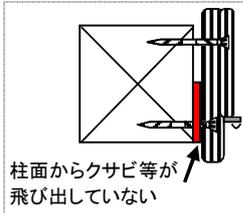
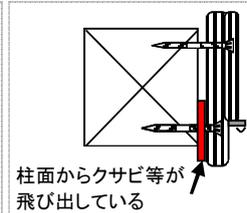


下地材内に(狭)と(広)の開口定規にて開口を確認

下地枠内(狭)

下地枠内(広)

② ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン(現場手配品)を接着剤併用にて入れて固定してください。



クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、
縦枠下地と躯体の間に差込む

クサビまたはパッキンの入れ方
×

クサビまたはパッキンの入れ方
○

注意

※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまう恐れがある場合については、別のビス(現場手配品)にて取り付けを行ってください。
 ※クサビ、またはパッキンは、ビスとビスの間に入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。
 ※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると石膏ボードの取り付けができないので、柱面からクサビ等が飛び出させないようにしてください。
 ※開口定規は2種類ありますので用途別に分けてください。(狭)・(広)

□片引き戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

7 巾木施工

- ① 巾木を接着剤にて縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)



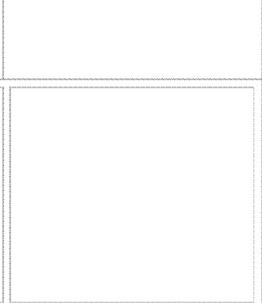
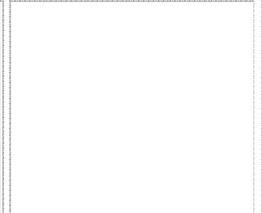
接着剤全面塗布



下地の巾木欠き込み部分
(7×30)



下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付け



※出荷時にはシンプル巾木の欠き込み（7×30）がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。
(巾木厚さ7mm以上の対応は行っていません)

注意

8 クロス施工(塗り壁の場合 別紙塗り壁仕様参照)

- ① パテ等の下地処理をした後でクロスを貼ってください。(メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします)
その際に金物加工部分もクロス巻き込んでください。



メッシュテープ貼り



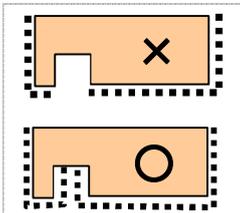
パテ処理



金物加工部分



金物加工部分も
クロスを巻き込む



クロスの貼り方



※上枠下地のレール溝部分はクロスを貼り伸して、レール溝に巻き込んでください。

注意

□片引き戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

9 受け金物の取り付け(塗り壁の場合別紙塗り壁仕様参照)

- ① クロスが乾いてから受け金物部分(鎌錠付の場合、鎌錠受け部分)にカッターで切り込みを入れ、受け金物を加工部に取り付けます。
金物は別途金物箱にあります。



金物加工部分を
カッターで切り込み

金物取り付け

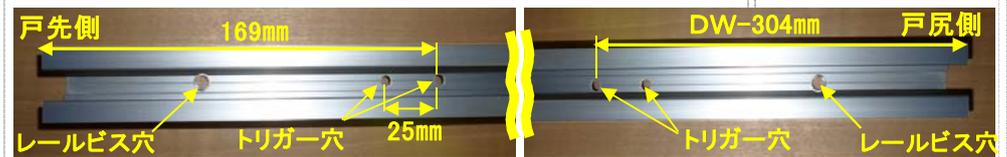


※金物加工はクロスの上から取り付けられる寸法になっておりますので、加工形状に切り取らず切り込みの上から取り付けてください。

注意

10 引戸レールの取り付け

- ① 引戸レールを取り付ける際、戸先側・戸尻側の向きを確認してください。(両側ソフトクローズ付の為、両側にトリガー穴加工がされていて、距離の短い方が戸先側になります)
レールは別途梱包にあります。



レールの戸先側の向き確認

- ② 上部吊車をレール内部に入れてください。(上部吊車(スライダー付)が戸先側、上部吊車のみが戸尻側)
付属のレール取り付けビスで、レールを固定してください。



吊り車をレールに入れる

※戸尻側の吊り車の向きに注意してください。(突起がある方が内側)
※トリガー取り付け穴には、レールビスを固定しないでください。
※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると金物が破損する可能性がありますので注意してください。

注意

□片引き戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

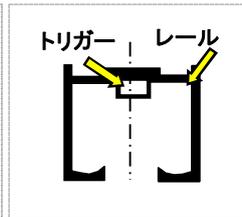
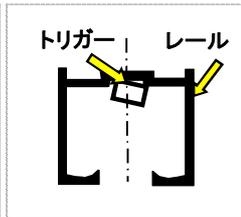
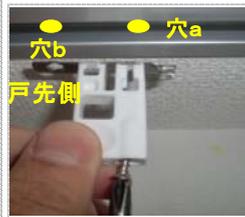
11 トリガーの取り付け

- ① トリガーを取り付ける前に、トリガーを取り付け用治具にセットします。(矢印がある方が戸先・戸尻側共、外側に向きます)
金物は別途金物箱にあります。



トリガーをトリガー取り付け治具にセット

- ② レール取り付け後、レール部の穴aとトリガーの穴aを合わせて取り付けます。(その際に戸先側と戸尻側を間違わないように取り付けてください)
穴aを完全に固定したら取り付け治具を引き抜き、穴bをビス止めします。



トリガーの穴を合わせる

トリガー取り付け方
× (斜め)

トリガー取り付け方
○

注意

※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めすると、トリガーが変形してしまう恐れがあるので注意してください。
※トリガーはレールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。

12 ガイドの取り付け・下レールの取り付け (フルハイトカロ引戸の場合)

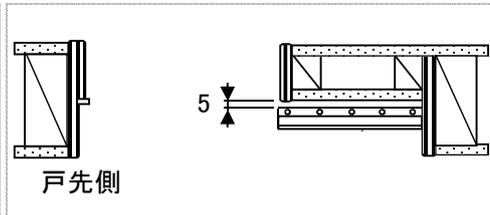
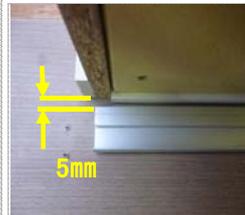
- ① 各納まりに応じたガイドを取り付けます。
金物は別途金物箱にあります。



床付ガイドの取り付け

壁付ガイドの取り付け

- ② フルハイトカロの場合は下レールを床に取り付けます。(小壁から5mm離し、中方立見付け面に合わせた所に取り付けてください)



下レールの取り付け

注意

※床付ガイドを取付ける際、下穴をあけてから取付けを行ってください。
※下レール取り付けの際、ビスを締め付けすぎるとレールが変形する恐れがありますので、最後の締め付けは必ず手動ドライバーにて行ってください。

□片引き戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

13-1 建具の吊り込み (フルハイトカロ引戸の場合は11-2 参照)

① ガイドに、建具下のガイド溝から建具を差し込みます。



床付ガイドを
建具溝に差し込む

壁付ガイドに
建具溝を差し込む

② 建具を起こしていきながら、建具上部の固定カップとレール内にある上部吊車を連結し、吊り込み完了です。



固定カップと
上部吊車を連結する

パチンの音を確認

注意

※上部吊車と固定カップは、パチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと使用中、外れる恐れがあります。
 ※吊車を取り外す際、素手では外れない場合はプライヤー等の工具を使用して取り外してください。
 ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎるとソフトクローズが利かなくなったり、吊車が破損する可能性があるので注意してください。

13-2 建具の吊り込み (カロ引戸の場合)

① 建具の戸尻側の下端に打込みスペーサーを使って下ローラーを取り付けます。(下ローラー・打込みスペーサー共建具金物箱に同梱)
 その後、下レールに下ローラーをはめ込みます。



戸尻側に下ローラーを
取り付ける

下レールに下ローラーをはめ込む

② 建具を起こしていきながら、建具上部の固定カップとレール内にある上部吊車を連結し、吊り込み完了です。



固定カップと
上部吊車を連結する

パチンの音を確認

注意

※上部吊車と固定カップは、パチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと使用中、外れる恐れがあります。
 ※吊車を取り外す際、素手では外れない場合はプライヤー等の工具を使用して取り外してください。

□片引き戸(上吊)

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

14 上部吊車・鎌錠受けでの調整

<p>① 吊り込み後に上部吊車で調整をする際は、上下調整は下側のネジ、前後調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。</p>			<p>【調整範囲】 上下方向±3.0mm 前後方向±2.0mm</p>	
<p>② 鎌錠受けで調整する場合は、上下調整は上下の固定ビスを緩めて、鎌錠受けを手で上下に動かしてください。前後の調整は内側にあるビスをまわして調整を行ってください。</p>				
<p>注意</p> <p>※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。 ※ソフトクローズ機能の調整はできません。</p>	<p>上下の調整</p>	<p>前後の調整</p>		

□ **アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】** forステルス枠

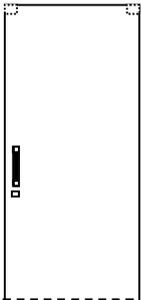
施工手順書2013/6更新

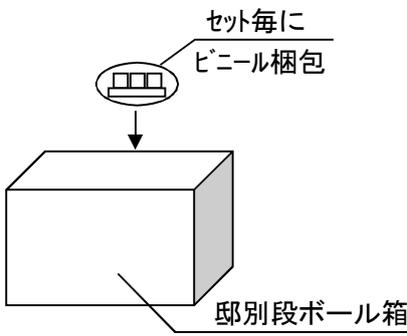
改訂2017/1

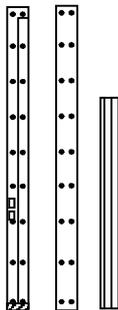
■ **製品及び同梱内容の確認**

● 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

※はフルハイトカロ引戸の場合のみになります。

建具			同 梱 品				
部材	数量	備考					
引き戸	1枚	引手取付済み(ウェルチカはなし) 固定カップ取付済み 鎌錠の場合は カセットのみ取付済					
							

※建具金物箱			※下ローラー	※打込みスペーサー	鎌錠	
部材	数量	備考				
金物箱	10セットに付1箱		1ヶ	1ヶ	※鎌錠付の場合のみ1セット	
						

下地枠			施工手順書			
部材	数量	備考	同 梱 品			
縦枠下地	1本					
中方立下地	1本					
上枠下地	1本					
						

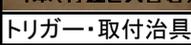
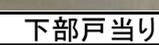
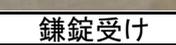
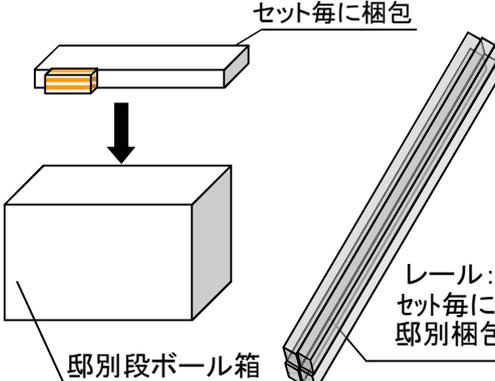
□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】 forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

■製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

下地金物箱			引戸レール	上部吊車	上部吊車(両側スライダー付)								
部材	数量	備考	同										
金物箱	1式			1本(付属ビス含む)	1ヶ	1ヶ							
レール	1式		梱										
 <p>セット毎に梱包</p> <p>レール: セット毎に 邸別梱包</p> <p>邸別段ボール箱</p>				調整ビス			※鎌錠付の場合						
			品										
				1セット	<table border="1"> <tr><td>H21</td><td>12本</td></tr> <tr><td>H24</td><td>14本</td></tr> <tr><td>H26</td><td>14本</td></tr> </table>	H21	12本	H24	14本	H26	14本		
H21	12本												
H24	14本												
H26	14本												
※下部部品はタイプにより異なります													
			上吊	カロの場合	壁付ガイドの場合								
			床付ガイド	下レール	壁付ガイド								
													
			1ヶ(ビス3本付)	1本(付属ビス含む)	1ヶ(ビス4本付)								

□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】

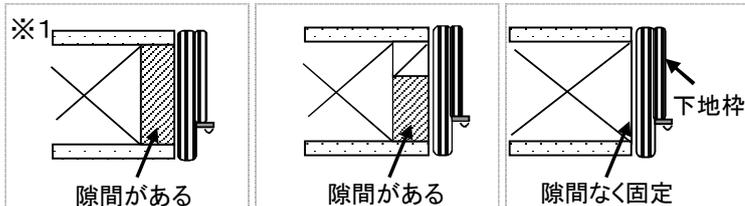
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

1 施工前の確認事項

- ① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾(図面：ROW寸法)と高さ(図面：床仕上～開口高さ)の確認をしてください。
(縦枠下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください)

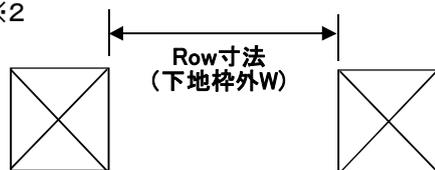


×

×

○

※2



図面上のRow寸法(下地枠外W)の確認

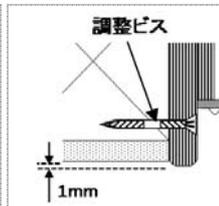
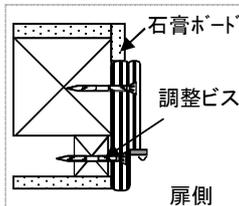


注意

- ※下地枠は躯体(構造材)に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。
- ※施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法(下地枠外W)を確認してください。
- ※開口部(柱・まぐさ等)の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認してください。

2 縦枠下地の取り付け

- ① 縦枠下地を柱に固定します。(下地断面の厚みが薄い方が戸袋側) 枠の位置は壁に対して1mmのチリが出ますので、戸袋側に1mm出した所におき、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。(壁厚に対して下地枠が足りない部分は石膏ボードを貼ってください)

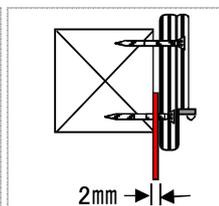
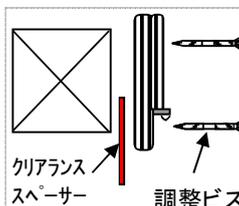


調整ビスにより枠を固定

壁厚より1mmずつチリが出る

ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。

- ② 取り付けの際に調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー(2mm)を躯体と枠の間に入れ、クリアランスを保ち、ビス固定を行ってください。(図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm)
また、縦枠下地の裏側下部にあらかじめ2mmのパッキン材がついています。



クリアランススペーサーを挟む

2mmのクリアランスを保ち、調整ビスにより枠固定

あらかじめ縦枠下地の裏側下部に2mmのパッキン材がついている

注意

- ※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのパッキン材が取り付けられていますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。
- ※クリアランススペーサーが抜けぬ場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。
- ※躯体がスタッドの場合は石膏ボードに直接、縦枠下地を取り付けると調整ビスが利かないので、必ず間に木材(15mm以上)を入れてください。
- ※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度、取り付けを行ってください。

□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】

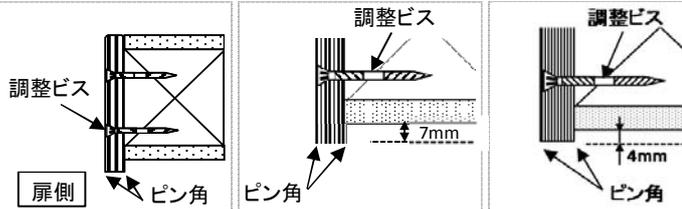
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

3 中方立下地の取り付け

① 戸尻側
中方立下地を柱に固定します。
(ピン角側が扉側)
中方立下地の位置は壁に対して7mm
(塗り壁時4mm)のチリが出ますので、扉側に7mm(塗り壁時4mm)出した所におき、レーザー等で立ちを見ながら同梱の調整ビスにて枠を固定してください。



調整ビスにより枠を固定

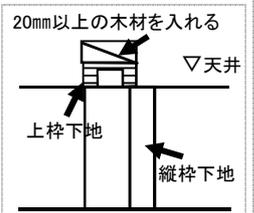
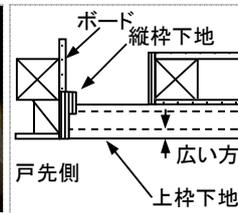
壁厚より7mmチリが出る
(クロス貼り仕上の場合)

壁厚より4mmチリが出る
(塗り壁仕上の場合)

注意 ※戸尻側の中方立下地材は扉側がピン角になるように取り付けを行ってください。
※中方立下地の納まりは、クロス貼り仕上と塗り壁仕上では異なります。取付位置の寸法を確認して取り付けを行ってください。

4-1 上枠下地の取り付け

① 上枠下地を接着剤、取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。その際、縦枠下地の戸袋側の面から1mm入った所に取り付けてください。(縦勝ちに納まります)
上枠下地の裏側には20mm以上の木材を入れてください。



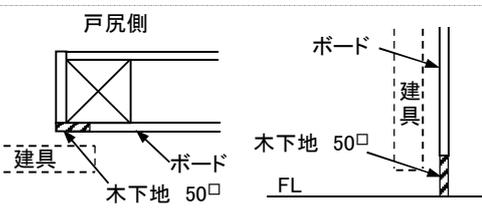
下地裏面に接着剤全面塗布

下地表よりビス固定

上枠下地の取り付け位置

上枠下地の裏には
20mm以上の木材を入れる

② 壁付ガイド取り付け位置には、あらかじめ50mm□以上の下地合板(現場調達品)を取り付けてください。



木下地を取り付ける



注意 ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)
※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置にビス止めを行ってください。
※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。
※縦枠下地及び片方立下地の天井のみ込み部分は、ボードの厚み部分の欠き込みを行ってください。

□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】

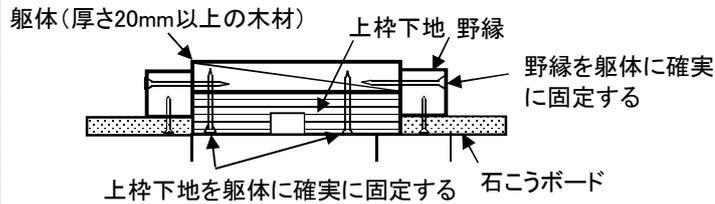
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

4-2 上枠下地の取り付け

- ① 上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さを確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。



石膏ボードの厚さを確保して、野縁を躯体に固定
その後、野縁に石膏ボードを取付ける

注意

- ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)
- ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
- ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置でビス止めを行ってください。
- ※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。
- ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロスの割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。

5 縦枠下地の調整・クサビまたはパッキン材固定

- ① 下地の取り付け後に調整が必要な際は、手動ドライバーにて縦枠下地の出し入れを行ってください。



ビスの止め方
×

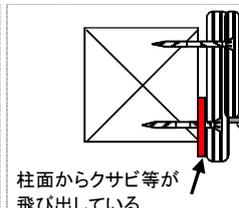


ビスの止め方
○

- ② ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン(現場手配品)を接着剤併用に入れて固定してください。

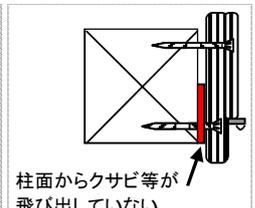


クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、
縦枠下地と躯体の間に差込む



柱面からクサビ等が飛び出している

×



柱面からクサビ等が飛び出していない

○

注意

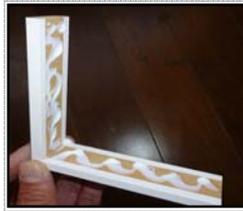
- ※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまふ恐れがある場合については、別のビス(現場手配品)にて取り付けを行ってください。
- ※クサビ、またはパッキンは、ビスとビスの間に入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。
- ※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると石膏ボードの取り付けができないので、柱面からクサビ等が飛び出さないようにしてください。

□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】

forステルス枠
 施工手順書2013/6更新
 改訂2017/1

6 巾木・クロス施工(塗り壁の場合 別紙塗り壁仕様参照)

- ① 巾木を接着剤にて縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)



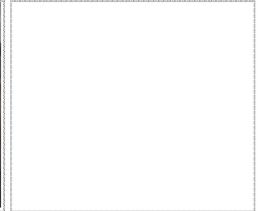
接着剤全面塗布



下地の巾木欠き込み部分
(7×30)



下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け



※出荷時にはシンプル巾木の欠き込み(7×30)がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。(巾木厚さ7mm以上の対応は行っておりません)

注意

7 巾木・クロス施工(塗り壁の場合 別紙塗り壁仕様参照)

- ② パテ等の下地処理をした後でクロスを貼ってください。(メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします)
 その際に金物加工部分もクロス巻き込んでください。



メッシュテープ貼り



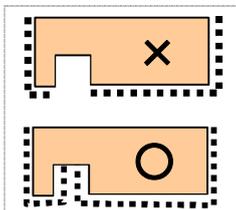
パテ処理



金物加工部分



金物加工部分も
クロスを巻き込む



クロスの貼り方



※上枠下地のレール溝部分は、クロスを貼り伸してレール溝に巻き込んでください。

注意

□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】

forステンレス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

8 受け金物の取り付け (塗り壁の場合別紙塗り壁仕様参照)

- ① クロスが乾いてから受け金物部分(鎌錠付の場合鎌錠受け部分)にカッターで切り込みを入れ、受け金物を加工部に取り付けます。
金物は別途金物箱にあります。



金物加工部分を
カッターで切り込み

金物取り付け

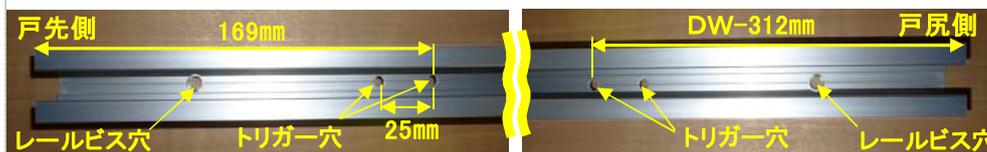


※金物加工はクロスの上から取り付けられる寸法になっておりますので、加工形状に切り取らず、切り込みの上から取り付けてください。

注意

9 引戸レールの取り付け

- ① 引戸レールを取り付ける際、戸先側・戸尻側の向きを確認してください。(両側ソフトクローズの為、両側にトリガー穴加工がされていて、距離の短い方が戸先側になります)
レールは別途梱包にあります。



レールの戸先側の向き確認

- ② 上部吊車をレール内部に入れてください。(上部吊車(スライダー付)が戸先側、上部吊車のみが戸尻側)
付属のレール取り付けビスで、レールを固定してください。



吊り車をレールに入れる

※戸尻側の吊り車の向きに注意してください。(突起がある方が内側)
※トリガー取付穴には、レールビスを固定しないでください。
※建具の開閉は勢いよくやりすぎると、金物が破損する可能性があるため注意してください。
※上部ストッパーを戸尻側に入れるのを忘れないでください。

注意

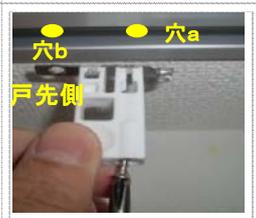
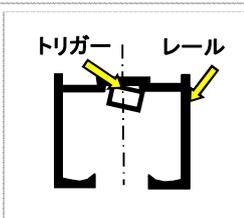
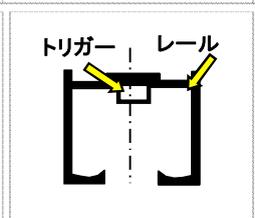
□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】

forステルス枠

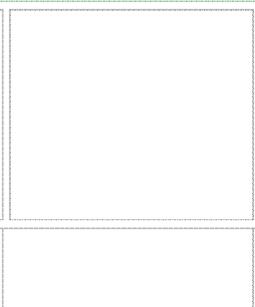
施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

10 トリガーの取り付け

<p>① トリガーを取り付ける前に、トリガーを取り付け用治具にセットします。(矢印がある方が戸先・戸尻側共、外側に向きます) 金物は別途金物箱にあります。</p>	 <p>トリガーをトリガー取り付け治具にセット</p>			
<p>② レール取り付け後、レール部の穴aとトリガーの穴aを合わせて取り付けます。(その際に戸先側と戸尻側を間違わないように取り付けてください) 穴aを完全に固定したら取り付け治具を引き抜き、穴bをビス止めします。</p>	 <p>トリガーの穴を合わせる</p>	 <p>トリガー取り付け方 × (斜め)</p>	 <p>トリガー取り付け方 ○</p>	
<p>注意</p>	<p>※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めするとトリガーが変形してしまう恐れがあるので、注意してください。 ※トリガーはレールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。</p>			

11-1 上部ストッパー・ガイドの取り付け (フルハイトカロ引戸の場合は10-2参照)

<p>① 戸尻側の上部ストッパーを固定します。(レールの端部ぎりぎりに寄せて固定してください) 金物は別途金物箱にあります。</p>	 <p>上部ストッパーの取付位置</p>	 <p>締め付けは 手動ドライバーで行う</p>		
<p>② 各納まりに応じたガイドを取り付けます。 壁付ガイドの場合は、ガイドと壁の隙間にかい木(現場調達)を入れてください。 金物は別途金物箱にあります。</p>	 <p>床付ガイドの取り付け</p>	 <p>壁付ガイドの取り付け 隙間にかい木を入れてください</p>		
<p>注意</p>	<p>※ガイドを取付ける際、下穴をあけてから取付けを行ってください。</p>			

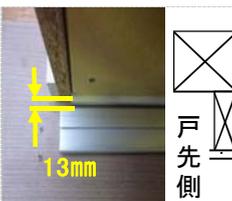
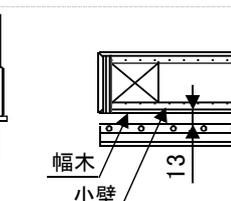
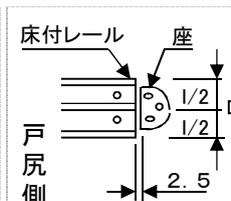
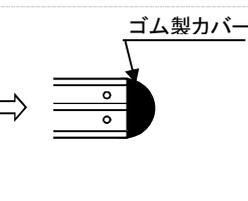
□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

11-2 上部ストッパー・下レール・下部戸当りの取り付け (フルハイトカロ引戸の場合)

<p>① 戸尻側の上部ストッパーを固定します。(レール端部ぎりぎりに寄せて固定してください)</p>				
	<p>上部ストッパーの取付位置</p>	<p>締め付けは 手動ドライバーで行う</p>		
<p>② 下レールを床に取り付けます。(壁から13mm離し、壁見付け面に合わせた所に取り付けてください) その後、下部戸当りを戸尻側に取り付けます。(下レールの端部から2.5mm離し、見込み方向の真ん中に取り付けてください)</p>				
	<p>下レールの取り付け</p>	<p>下部戸当りの取り付け</p>		
<p>注意</p>	<p>※下レール取り付けの際、ビスを締め付けすぎるとレールが変形する恐れがありますので、最後の締め付けは必ず手動ドライバーにて行ってください。</p>			

12-1 建具の吊り込み (フルハイトカロ引戸の場合は12-2参照)

<p>① ガイドに、建具下のガイド溝から建具を差し込みます。</p>				
	<p>床付ガイドを 建具溝に差し込む</p>	<p>壁付ガイドに 建具溝を差し込む</p>		
<p>② 建具を起こしていきながら、建具上部の固定カップとレール内にある上部吊車を連結し吊り込み完了です。</p>				
<p>注意</p>	<p>※上部吊車と固定カップはパチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと使用中、外れる恐れがあります。 ※吊車を取り外す際、素手では外れない場合 プライヤー等工具を使用し取り外してください。 ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎるとソフトクローズが効かなくなったり、吊車が破損する可能性があるため注意してください。</p>			

□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

12-2 建具の吊り込み (フルハイトカロ引戸の場合)

<p>① 建具の戸尻側の下端に打ち込みスペーサーを使って下ローラーを取り付けます。(下ローラー・打ち込みスペーサー共、建具金物箱に同梱) その後、下レールに下ローラーをはめ込みます。</p>				
<p>② 建具を起こしていきながら、建具上部の固定カップとレール内にある上部吊車を連結し、吊り込み完了です。</p>	 <p>押す</p>	 <p>パチン</p>		
<p>注意</p>	<p>※上部吊車と固定カップはパチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと使用中、外れる恐れがあります。 ※吊車を取り外す際、素手では外れない場合はプライヤー等工具を使用し取り外してください。 ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると吊車が破損する可能性があるので注意してください。</p>			

13 下部戸当りの取り付け

<p>① 扉を戸尻側に寄せて扉の下部に戸当りを取り付けてください。 (扉の端部から2.5mm離し、見込み方向の真ん中に取り付けてください) 金物は別途金物箱にあります。</p>	 <p>座</p> <p>2.5mm</p>	 <p>カバー</p>		
<p>注意</p>				

□アウトセット片引き戸(上吊) 【エンド枠付タイプ】

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

14 上部吊車・鎌錠受けでの調整

- ① 吊り込み後に上部吊車にて調整をする際は、上下調整は下側のネジ、前後調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。



【調整範囲】
上下方向±3.0mm
前後方向±2.0mm

上部吊車
上下の調整

上部吊車
前後の調整

- ② 鎌錠受けにて調整する場合、上下調整は、上下の固定ビスを緩めて鎌錠受けを手で上下に動かしてください。前後の調整は、内側にあるビスをまわして調整を行ってください。



上下の調整

前後の調整



注意

- ※調整の際に電動ドライバーは使用しないでください。
- ※ソフトクローズ機構の調整はできません。

□アウトセット片引き戸(上吊)【エンド枠なしタイプ】

forステルス枠

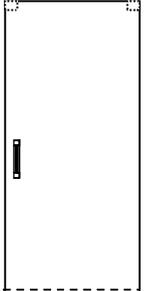
施工手順書2013/6更新

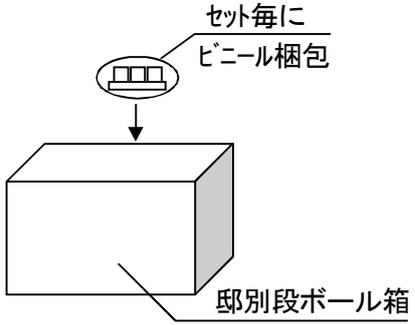
改訂2017/1

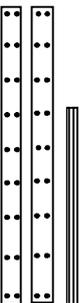
■ 製品及び同梱内容の確認

● 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

※はフルハイトカロ引戸の場合のみになります。

建具			同			
部材	数量	備考				
引き戸	1枚	引手取付済み(ヴェルチカはなし) 固定カップ取付済み				
				梱		
			品			

※建具金物箱			※下ローラー	※打込みスペーサー		
部材	数量	備考	同	 1ヶ  1ヶ		
金物箱	10セットに付1箱				梱	
 <p>セット毎に ビニール梱包</p> <p>邸別段ボール箱</p>			品	※鎌錠付の場合のみ1セット 建具金物箱に同梱		

下地枠			施工手順書			
部材	数量	備考	同			
中方立下地	2本				梱	
上枠下地	1本		品			
						

□アウトセット片引き戸(上吊)【エンド枠なしタイプ】

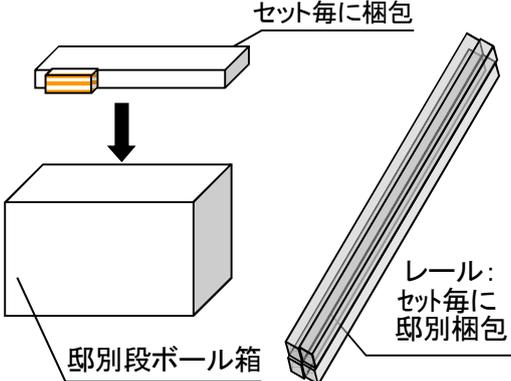
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

■製品及び同梱内容の確認

- 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

下地金物箱			引戸レール	上部吊車	上部吊車(両側スライダー付)
部材	数量	備考	 1本(付属ビス含む)	 1ヶ	 1ヶ
金物箱	1式		トリガー・取付治具	上部ストッパー	下部戸当り
レール	1式		 2ヶ	 2ヶ	 2ヶ
 <p>セット毎に梱包</p> <p>レール: セット毎に 邸別梱包</p> <p>邸別段ボール箱</p>			※下部部品はタイプにより異なります		
			上吊	カロの場合	壁付ガイドの場合
			床付ガイド	下レール	壁付ガイド
			 1ヶ(ビス3本付)	 1本(付属ビス含む)	 1ヶ(ビス4本付)
			受け金物	※アウトセット引戸錠付の場合のみ 1セット下地金物箱に同梱	
					

□アウトセット片引き戸(上吊)【エンド枠なしタイプ】

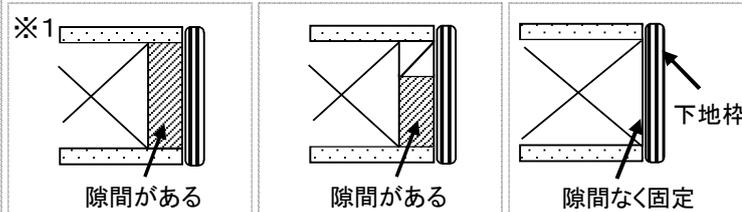
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

1 施工前の確認事項

- ① 下地枠を取り付ける前に、開口部の中(図面：ROW寸法)と高さ(図面：床仕上～開口高さ)の確認をしてください。
(中方立下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください)

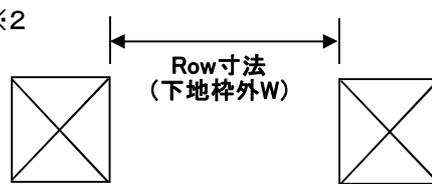


×

×

○

※2



図面上のRow寸法(下地枠外W)の確認

注意

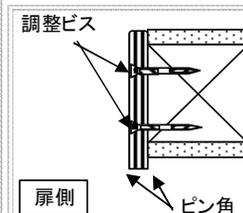
※1: 下地枠は躯体(構造材)と面接合するように取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木を全面に入れておいてください。

※2: 施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法(下地枠外W)を確認してください。

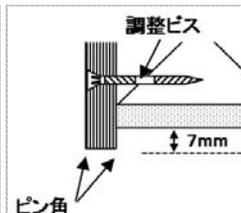
※開口部(柱・まぐさ等)の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で精度を十分に確認してください。

2 中方立下地の取り付け

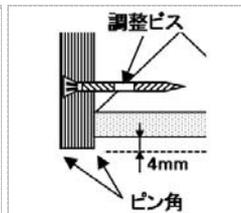
- ① 中方立下地を柱に固定します。
(ピン角側が扉側)
中方立下地の位置は壁に対して7mm(塗り壁時4mm)のチリが出ますので、扉側に7mm(塗り壁時4mm)出した所におき、レーザ等で立ちを見ながら同梱の調整ビスにて枠を固定してください。



調整ビスにより枠を固定



壁厚より7mmチリが出る
(クロス貼り仕上の場合)



壁厚より4mmチリが出る
(塗り壁仕上の場合)

- ② 中方立下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にて躯体に固定します。(壁厚の真ん中に取り付けてください)



下地裏面に接着剤
全面塗布



下地表よりビス固定



ビスは下地表より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。



頭が飛出していない

注意

※中方立下地材は扉側がピン角になるように取り付けを行ってください。

※中方立下地材の納まりは、クロス貼り仕上と塗り壁仕上では異なります。取付位置の寸法を確認して取り付けを行ってください。

※中方立下地材裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(許ビスをお奨めします)

※中方立下地材の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。

※中方立下地材取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。

□アウトセット片引き戸(上吊)【エンド枠なしタイプ】

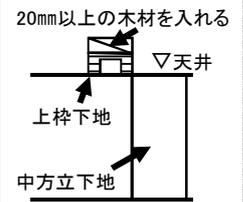
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

3 上枠下地の取り付け

① 上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。その際に戸先側を中方立下地の表面から37mm壁にかぶるように取り付けを行ってください。
上枠下地の裏には20mm以上の木材を入れてください。



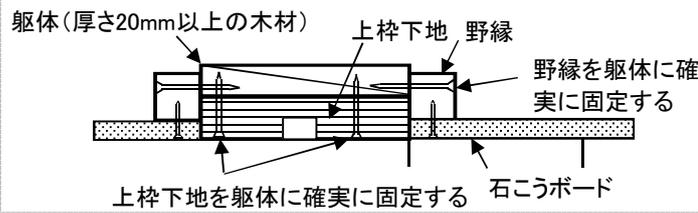
下地裏面に接着剤全面塗布

下地表よりビス固定

上枠下地取り付け位置
(中方立下地から37mm)

上枠下地の裏には
20mm以上の木材を入れる

② 上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。



石膏ボードの厚さ分を確保して、野縁を躯体に固定
その後、野縁に石膏ボードを取付ける

注意

- ※下地枠裏面には、必ず接着剤(現場手配品)を全面に塗布してください。(酢ビ系をお奨めします)
- ※下地枠の取り付けにはしっかりと固定できるビス(現場手配品)を使用し、必ず下穴の開いている位置でビス止めしてください。
- ※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。またその際、レールビスと干渉しない位置でビス止めを行ってください。
- ※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。
- ※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロスの割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。

4 巾木・クロス施工

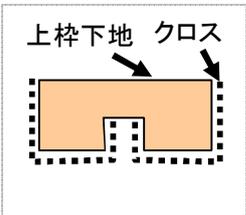
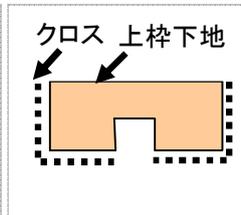
① 巾木を接着剤にて取り付けてください。(酢ビ系接着剤をお奨めします)



接着剤全面塗布

巾木取り付け

② パテ等の下地処理をした後でクロスを貼ってください。
(メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします)



メッシュテープ貼り

パテ処理

クロス貼り方
×

クロス貼り方
○

注意

- ※上枠下地のレール溝部分は、クロスを貼り伸ばしレール溝に巻き返してください。

□アウトセット片引き戸(上吊)【エンド枠なしタイプ】

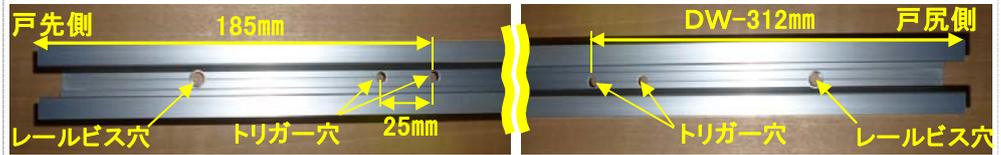
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

5 引戸レールの取り付け

- ① 引戸レールを取り付ける際、戸先側、戸尻側の向きを確認してください。(両側ソフトクローズ付の為、両側にトリガー穴加工がされていて、距離の短い方が戸先側になります)
レールは別途梱包にあります。



レールの戸先側の向き確認

- ② 上部吊車をレール内部に入れてください。(上部吊車(スライダー付)が戸先側、上部吊車のみが戸尻側)
付属のレール取り付けビスでレールを固定してください。



吊り車をレールに入れる



注意

- ※戸尻側の吊り車の向きに注意してください。(突起がある方が内側)
- ※トリガー取り付け穴にはレールビスを固定しないでください。
- ※上部ストッパーは戸先側・戸尻側の端部にそれぞれ入れてください。
- ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると金物が破損する可能性があるので注意してください。

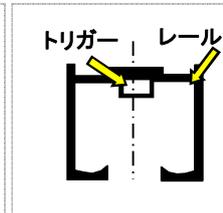
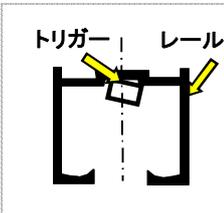
6 トリガーの取り付け

- ① トリガーを取り付ける前に、トリガーを取り付け用治具にセットします。(矢印がある方が戸先・戸尻側共、外側に向きます)
金物は別途金物箱にあります。



トリガーをトリガー取り付け治具にセット

- ② レール取り付け後、レール部の穴aとトリガーの穴aを合せて取り付けます。(その際に戸先側と戸尻側を間違わないように取り付けてください)
穴aを完全に固定したら取り付け治具を引き抜き、穴bをビス止めします。



トリガーの穴を合わせる

トリガー取り付け方
× (斜め)

トリガー取り付け方
○

注意

- ※溝に真っ直ぐ入っていない状態でビス止めすると、トリガーが変形してしまう恐れがあるので注意してください。
- ※トリガーはレールの溝部分に真っ直ぐに入るようにして、必ず手動ドライバーにて固定してください。

□アウトセット片引き戸(上吊)【エンド枠なしタイプ】

forステルス枠

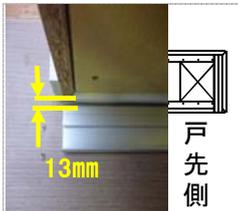
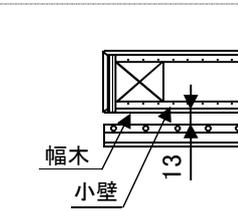
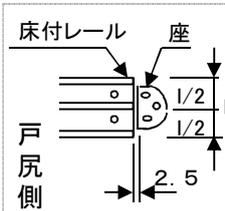
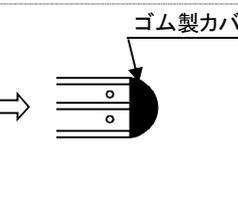
施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

7-1 上部ストッパー・ガイドの取り付け (カロ引戸の場合は7-2参照)

<p>① 戸先、戸尻側の上部ストッパーを固定します。(レールの端部ぎりぎりに寄せて固定してください) 金物は別途金物箱にあります。</p>				
<p>② 各納まりに応じたガイドを取り付けます。 壁付ガイドの場合は、ガイドと壁の隙間にかい木(現場調達)を入れてください。 金物は別途金物箱にあります。</p>				
<p>注意</p>	<p>※ガイドを取付ける際、下穴をあけてから取付けを行ってください。</p>			

7-2 上部ストッパー・下レール・下部戸当りの取り付け (カロ引戸の場合)

<p>① 戸先、戸尻側の上部ストッパーを固定します。(レールの端部ぎりぎりに寄せて固定してください)</p>				
<p>② 下レールを床に取り付けます。(壁から13mm離し、壁見付け面に合わせた所に取り付けてください) その後、下部戸当りを戸尻側に取り付けます。(下レールの端部から2.5mm離し、見込み方向の真ん中に取り付けてください)</p>				
<p>注意</p>	<p>※下レール取り付けの際、ビスを締め付けすぎるとレールが変形する恐れがありますので、最後の締め付けは必ず手動ドライバーで行ってください。</p>			

□アウトセット片引き戸(上吊)【エンド枠なしタイプ】

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

8-1 建具の吊り込み (カロ引戸の場合は8-2参照)

<p>① ガイドに、建具下のガイド溝から建具を差し込みます。</p>				
	<p>床付ガイドを 建具溝に差し込む</p>	<p>壁付ガイドに 建具溝を差し込む</p>		
<p>② 建具を起こしていきながら、建具上部の固定カップとレール内にある上部吊車を連結し、吊り込み完了です。</p>				
	<p>固定カップと 上部吊車を連結する</p>	<p>パチンの音を確認</p>		
<p>注意</p>	<p>※上部吊車と固定カップはパチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと使用中、外れる恐れがあります。 ※吊車を取り外す際、素手では外れない場合はプライヤー等の工具を使用し取り外してください。 ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎるとソフトクローズが効かなくなったり、吊車の破損・脱落の可能性があるので注意してください。</p>			

8-2 建具の吊り込み (カロ引戸の場合)

<p>① 建具の戸尻側の下端に打込みスペーサーを使って下ローラーを取り付けます。(下ローラー・打込みスペーサー共建具金物箱に同梱) その後、下レールに下ローラーをはめ込みます。</p>				
	<p>戸尻側に 下ローラーを取り付ける</p>	<p>下レールに下ローラーをはめ込む</p>		
<p>② 建具を起こしていきながら、建具上部の固定カップとレール内にある上部吊車を連結し、吊り込み完了です。</p>				
	<p>固定カップと 上部吊車を連結する</p>	<p>パチンの音を確認</p>		
<p>注意</p>	<p>※上部吊車と固定カップはパチンと音が鳴るまで連結させてください。最後まで入っていないと使用中、外れる恐れがあります。 ※吊車を取り外す際、素手では外れない場合はプライヤー等工具を使用し、取り外してください。 ※建具の開閉は、勢いよくやりすぎると吊車の破損・脱落の可能性があるので注意してください。</p>			

□アウトセット片引き戸(上吊)【エンド枠なしタイプ】

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

9 下部戸当りの取り付け

扉を戸尻側に寄せて扉の下部に戸当りを取り付けてください。
 (扉の端部から2.5mm離し、見込み方向の真ん中に取り付けてください)
 戸先側・戸尻側共、同様に行ってください。
 金物は別途金物箱にあります。



座の取り付け



カバーをつける

注意

10 上部吊車の調整

① 吊り込み後に上部吊車にて調整をする際は、上下調整は下側のネジ、前後調整は上側のネジにて、手動ドライバーで行ってください。



上部吊車
上下の調整



上部吊車
前後の調整

【調整範囲】
 上下方向±3.0mm
 前後方向±2.0mm

注意

※ソフトクローズ機構を正常に作動させるため、必ず初回の動作確認を行ってください。
 ※ソフトクローズ機構のスピードの調整はできません。

□アウトセット片引き戸(上吊)【エンド枠なしタイプ】

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

11 アウトセット引戸錠の受け金物（ストライク）の取り付け

<p>① 扉にアウトセット引戸錠を取り付けた後、受け金物を中方立下地の角部と扉に取り付けたアウトセット引戸錠の高さ位置に合わせます。 2本の固定ネジで取り付けてください。 金物は別途金物箱にあります。</p>				
<p>② 塗り壁の時 受け金物を中方立下地の端部から3mm出し、所定の取り付け高さ位置に合わせます。 2本の固定ネジで取り付けてください。 金物は別途金物箱にあります。</p>				
<p>注意</p>	<p>※1 クロス貼りの時は、受け金物の出入り方向は中方立下地の角部に合わせてください。このとき受け金物が中方立下地より飛び出さないようにしてください。 ※2 クロス貼りの時は、受け金物の取り付け高さは扉のアウトセット引戸錠に合わせてください。 ※3 塗り壁の時は、受け金物の出入り方向は中方立下地の端部から3mm出して取り付けてください。また、ビスは真直ぐに止めてください。 ※4 塗り壁の時は、受け金物取り付け高さはFLから引手センター位置（通常1050mm）より38mm引いたところを受け金物の下端としてください。 ※5 塗り壁の時、CHが1550mm以下又はお客様からのご指示等により引手センター位置が変更になった場合は、FLから引手センターまでの高さより38mm引いて受け金物の取付高さ位置を決めてください。</p>			

□ 塗り壁仕様施工方法

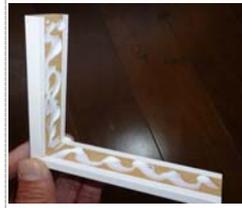
forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

1-1 共通事項

- ① 枠の取り付け・調整、クサビまたはパッキンの固定が終わったら、巾木を接着剤にて縦枠下地の欠込み部分にはめ込むように取り付けください。(接着剤は酢ビ系をおすすめします)



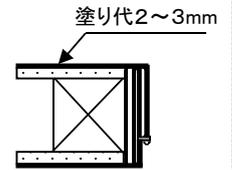
接着剤全面塗布



下地の巾木欠き込み部分
(4×30)



下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け



塗り代2~3mm

注意

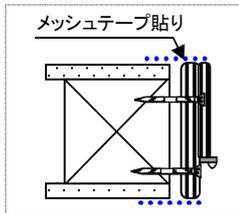
- ※出荷時には巾木の欠き込みはクロス仕様よりも3mm浅く(4mm)欠き込んであります。(巾木の厚み7mm以上の対応は行っておりません)
 ※塗りの厚みは2~3mmの設定になっているため、受金物もクロス仕様より2~3mm出っ張るよう加工されています。
 ※天井はクロス貼り、下がり壁は塗り仕上げの仕様となります。(下り壁仕上げ面の塗りの厚みは1.5mm以内となります)

1-2 共通事項

- ① 受金物の取り付けが終わったら、受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切縁等に隙間がないように養生を確実にし、石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープを貼ってください。

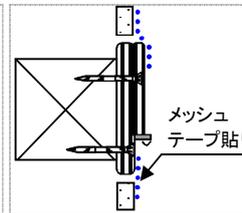


受金物等に養生



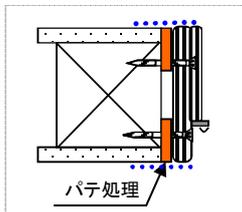
メッシュテープ貼り

メッシュテープ貼り
(石膏ボードと枠をまたぐように貼る)



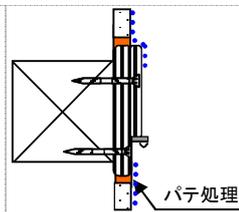
メッシュテープ貼り

- ② メッシュテープを貼った後、パテ処理(2度塗り推奨)をしてください。パテが乾燥後、下塗り材(アク止め入り)をムラなく塗り、1~2日乾燥させてください(漆喰の場合は2度塗り)。その後、仕上げ材をムラなく塗り、3~4日乾燥させてください。
 この時、ビス部分にもパテ処理を行ってください。

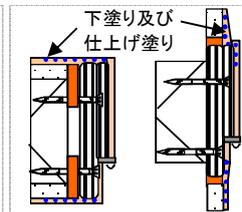


パテ処理

パテ処理(下地処理)
(2度塗りを推奨)



パテ処理



下塗り及び仕上げ塗り

下塗り及び仕上げ塗り



注意

- ※ウォールスルーはガラスの押え縁を見切りに塗ってください。
 ※受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切り縁等は出の寸法が異なりますので、はみ出さないよう注意して塗ってください。
 ※漆喰の場合、アク止めは1回塗った後に十分乾燥させ、さらにもう1回塗って、1~2日乾燥させた後に上塗りを行ってください。

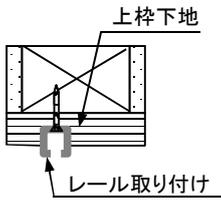
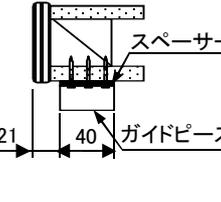
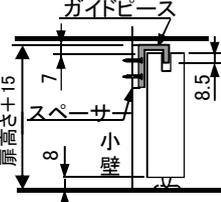
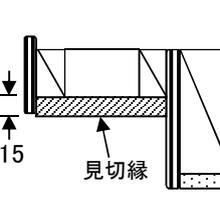
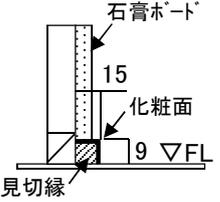
□ 塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

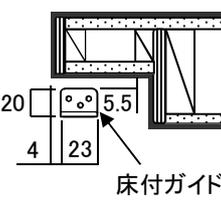
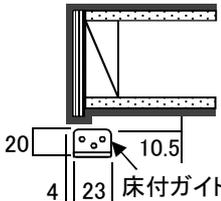
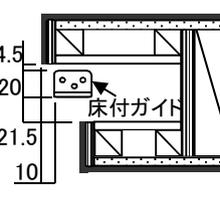
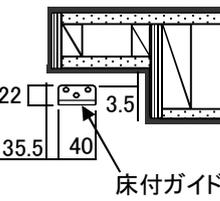
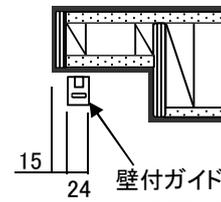
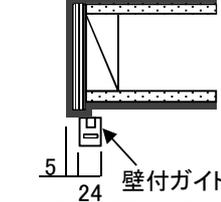
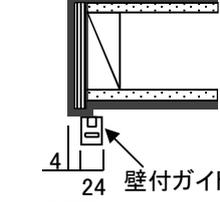
施工手順書2013/6更新

改訂2017/1

2-1 塗り壁施工前手順

<p>① レールの取り付け 下り壁仕様の場合、引き戸レール・折戸レールは塗り壁施工前に取り付けてください。</p>				
	<p>塗り壁施工前にレール取り付け</p>			
<p>② ガイドピースの取り付け 床付レール仕様の場合、ガイドピースを塗り壁施工前に裏側のスペーサーと共に取り付けてください。（取り付け位置はクロス仕様と同じ位置です）</p>				
<p>見切縁の取り付け 引込み戸の戸袋側の小壁に沿わせて見切縁を取り付けます。</p>		<p>ガイドピースの取り付け</p>		<p>見切縁の取り付け</p>
<p>注意</p>	<p>※フリー折戸の下レール、及び床付レールの取り付け位置はクロス仕様と同じ位置になります。 ※塗りは下り壁の場合のみの設定です。天井納まりの場合はクロス貼り仕様のため、クロス貼り後にレールを取り付けてください。 ※見切縁はボードより2.5mmチリが出ますので、見切縁よりみみ出さないように塗り壁施工を行ってください。</p>			

2-2 塗り壁施工前手順

<p>① 床付ガイドの取付け 塗りの厚みが3mmの場合、塗り仕上げ面からそれぞれ所定の位置にガイドを取付けてください。</p>				
	<p>片引き戸（上吊） 床付ガイド位置</p>	<p>アウトセット 床付ガイド位置</p>	<p>引込みポケット戸 床付ガイド位置</p>	<p>2枚・3枚引込み戸 床付ガイド位置</p>
<p>② 壁付ガイドの取付け 塗りの厚みが3mmの場合、塗り仕上げ面からそれぞれ所定の位置にガイドを取付けてください。</p>				
	<p>片引き戸（上吊） 壁付ガイド位置</p>	<p>アウトセットエンド枠付 壁付ガイド位置</p>	<p>アウトセットエンド枠なし 壁付ガイド位置</p>	
<p>注意</p>	<p>※塗りの厚みが3mmの場合の塗り仕上げ面からの位置になります。 ※壁付ガイドは隙間にかい木（現場調達）を入れて取り付けてください（27ページの7-1参照）。</p>			